

事業所名

Reはーとてらす

支援プログラム

作成日

2024 年

7 月

16 日

法人（事業所）理念		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の困難さ（辛さ）の原因を科学的、包括的につきとめ、根拠のある遊びや活動で楽しく発達を促していきます。 ・様々な資格を持った職員が同じ水準で支援を提供できるように、職員の質の向上に努めます。 ・子どもを中心とし、保護者や園・学校、相談支援事業所などの関係機関との連携、間接支援を充実させていきます。 ・社会全体の神経発達症の支援の質が向上するよう啓発していきます。 							
支援方針		子どもを中心とし、家族や通い先を含めた総合的な支援を提供する。発達段階に沿った機能や能力の習得、遊びの発達を総合的に促し、楽しく成長できる環境を作っていきます。							
営業時間		8 時	30 分	17 時	30 分	送迎実施の有無	あり	なし	(条件あり)
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	口頭での体調の確認や、観察による顔色や行動・体調の変化を把握します。日常生活に必要なスキル（着替え、トイレ、箸、入浴など）の練習やそれに伴った機能訓練を行います。1日のリズム作りや睡眠のリズムが整うように家族や園、学校などとも連携を図ります。							
	運動・感覚	体幹や手足などのベースとなる体づくり、体力づくりを目的に外遊びや散歩などを行います。外界からの様々な刺激・感覚を楽しめるように場面設定をしていきます。ブレインジムの体操を用いて、各種感覚や体の使い方を練習していきます。							
	認知・行動	制作や学習・机上活動での文字や色の認識、想像力を活かした活動。場面の切り替えに必要なアラーム（音）での気づきや、時計に目印をつけた視覚的な補助などその子に合わせた環境を設定します。外界から受ける刺激を正しく認知できるように視覚、聴覚、嗅覚、固有感覚、前庭感覚のトレーニング、ブレインジムを使った体操を行っていきます。こぐトレでの認知、社会性、体の使い方の練習も行います。自己肯定感を上げるための成功体験を得るために小さな「できた」の体験を多く感じてもらいます。							
	言語コミュニケーション	口や舌の運動、言語表出が難しい場合は写真や絵カードを用いての非言語的なコミュニケーションを用いる。体や筋肉の発達から言葉につながることもあるため、運動も行っていく。							
	人間関係社会性	自分の気持ちのコントロールを気持ちカードを用いることでの支援、一人遊びから集団遊び、ルールのある遊びへと遊びの発達を促していきます。小集団での他児との関り、指導員を仲介したやりとり、すぐに諦めずに「分からない、手伝って」と言える関係づくりを行っています。							
家族支援		自宅への訪問や事業所内での対面での面談。支援場面の見学や参加によってお子様の特性の理解や関わり方をお伝えする。			移行支援		園から小学校、小学校から中学校へのライフステージの変化に伴う情報の共有、利用終了する際の次の通いの場所への情報の共有などを行っています。		
地域支援・地域連携		通っている園や学校、相談支援事業所などと情報を共有したり、統一した関わり方ができるように助言などを行っていく。			職員の質の向上		毎月最低1回の勉強会の開催、各種研修会への参加、支援の振り返りやケース会議の実施を行っています。		
主な行事等		季節の制作、長期休みのお楽しみイベントとして、おやつのお買い物、水遊び、昆虫館や電車やバスでの移動の経験。							